柏市教育長賞

優しい国であるために

柏市立柏の葉中学校　第三学年　得地　優里

今年の春、宮城県気仙沼市に暮らす祖父母を尋ねた。一年に何度も会えないけれど、いつも笑顔で迎えてくれる祖父と祖母に会うとホッとする。私が一歳の頃、母と帰省していた気仙沼で東日本大震災が起こった。私は覚えていないけれど祖父の家の近くまで津波がきて、町は壊滅的な被害にあった。あれからもう十三年が経った。海岸には土嚢が敷き詰められていたのに、時間の経過と共に巨大な堤防ができた。隣接する大島に行く連絡船はなくなり、大きな橋ができた。この町は、年々少しずつ息を吹き返し、これは公共事業という税金によるものだと知った。

「税金。」普段の生活で身近なものは消費税、更に調べていくと所得税や法人税、住民税、固定資産税や自動車税などもある。その集められた税金がどのように使われているのかを意識することは少ない。でも変わりゆく東北の町を見て、強く税金の大切さを実感した。安全で安心な生活を日本で過ごすためには、やはり国民が一人一人決められた税金を払っていくことが大切だと思う。

少子高齢化が進み、二〇〇〇年に三・六人の労働者が一人の高齢者を支えていたが、二〇五〇年には労働者一・三人が一人の高齢者を支えるまでになると予想されている。このままでは、税金を払わなければいけない人よりも税金に助けられている人が増えてしまう。これを改善するために、ハンガリーやスウェーデンのように消費税を上げなければいけないのかもしれない。でも、消費税が上がると、人々への負担が重くなりすぎる。それを防ぐために、税金の使い道をしっかりと見直し、時代にあったシステムを考えていく必要があると思った。

日本は災害が多い。東日本大震災が起こった時も、税金による助けがなければ、祖父母の住む町は荒れ果てたままだっただろう。今後も東南海地震なども予想されているし、地球温暖化による極地的な豪雨で、私達の生活を脅かす事象が増加していくかもしれない。災害で被害にあった地域の公共事業を行うことは当たり前だと思っていたけれど、これは全て税金によるものだ。自然災害が次々と起きている今、これまで以上に必要な税金が増えるという現実を受けとめ、税の重要性を噛み締めながら生活していかなければならないと思う。

今回、税について調べ、私達は税に守られていると強く感じた。そして、色々な形で納められ、それぞれに合った額を納税することで、協力し合い、日本の国を支えている。これからも社会が平等であってほしい。弱い人も見捨てない、優しい国であるために、税金の仕組みを考えながら、このシステムを守っていかなければならないと思う。